

第2回 歴史・文化、自然再生WGの開催結果

日 時	平成24年3月6日(火) 10:00~12:00	
場 所	亀岡市役所 201会議室	
出席者	京都大学大学院 教授 亀岡文化資料館 館長 京都学園大学 准教授 亀岡地区東部自治会 NPO法人亀岡 人と自然のネットワーク 保津川の世界遺産登録をめざす会 亀岡市文化資料館友の会 公募委員	岩田 明久 グループ長 黒川 孝宏 副グループ長 大西 信弘 柴田 治人 仲田 丞治 樋口 隆久 中川 秀夫 豊田 知八
	(順不同、敬称略)	
	亀岡市環境政策課 中西係長 // 道路河川課 竹村課長 // 桂川・広域交通課 中井課長、柴田副参事、竹村主査 京都府南丹広域振興局 上條企画総務部長 (事務局) 京都府南丹土木事務所河川砂防室 松崎室長、井尻副室長、福井主査、青木副主査	
内 容 (次第)	1)開 会 2)前回の振り返り 3)議 事 ○内膳堤の復元について ○具体的な取り組み(案)について ○今後の進め方について 4)閉 会	
結 果	<p>○内膳堤の復元にあたっては、築造当時の目的や構造を明らかにするため、可能な限り当時の資料を収集する。例えば、内膳堤を築造した岡部氏の最後の居城が岸和田城であり、岸和田市の郷土資料館に資料がある可能性があると考えられる。</p> <p>○また、復元の今日的な目的の一つに、多様な生物の生息環境の創出があり、そのため湧水、流水などの透水性への配慮が必要。</p> <p>○水辺の保全再生にあたっては、産卵から生育の場として、本川～水路～ワンド～水路～本川といった、つながりを持たせた新たな生息環境の創出にも努めていく。</p> <p>○ワーキングで、川の内外からの現地踏査、歴史的構造物や自然再生の先進地視察を検討していく。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内膳堤について、岡部氏の資料はチェックしているが、土木的な資料はチェックできていない。岡部氏は岸和田にもいたので、岸和田の郷土資料館等の資料チェックが必要。 ・隙間がたくさんあるような箇所が、生物が棲むには適している。 ・昔アユモドキが生息していた箇所は、石垣から湧水があり、流れがあるところだった。 ・内膳堤を復元するに当たり、透過性を持たせることが重要。 ・下内膳堤に成魚の生育場所を作れば、上流から水を取り、下内膳堤から氾濫原に繋がる構造とし、途中で2箇所浅い水溜まりを作ってみてはどうか。 ・太くなったり、細くなったりするみお筋をつくり、構造の多様化を図ることで、生物の多様性が期待できるのではないか。 ・WG全員で現地調査をしてはどうか。また、環境に配慮した事例等を視察してはどうか。 	

